

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖鳥会会報

第2号 平成5年12月 鳥取市湖山町南4丁目101番地
鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会 湖鳥会



<目次>

- 鳥取大学工学部 電気電子工学科の教職員紹介
- 工学部の内閣 池内君のこと
- 鳥取大学の思い出 徳島文理大学教授 笹倉 博
- 同窓生メモ 退官の一言
- 新任、昇任、年度事務から 1993年度：事業計画
- 1992年度事務から 1993年度：予算案
- 湖鳥会事務局の連絡

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会

湖 鳥 会 メ モ

	平成5年12月現在
同窓会会員数	1,865名
電気電子工学科在学生数	360名
特別会員数	17名
賛助会員数	39名

鳥取大学工学部 電気電子工学科の教職員紹介

電気回路システム講座		
研究グループ	職員名	①専門分野 ②授業科目 ③趣味
電磁	宮崎 和彦 教授	①同調可能(波長可変) レーザの開発、同調可能レーザの応用 ②レーザ工学特論、電磁エネルギー工学特論、電磁波工学、集積回路工学、電気応用学 ③山歩き、サッカー、水泳
	笠田 洋文 技官	①電子回路技術 ③電子回路工作、アマチュア無線、スキー、 バドミントン
機器	西守 克己 教授	①知的情報処理、パターン画像処理 ②電気電子工学輪講Ⅰ、 制御工学Ⅱ、電子計算機Ⅲ、電気・電子計測学、電気電子工学 実験Ⅰ ③山歩き、読書
	齊藤 皓彦 助教授	①磁性工学 ②電気電子材料工学特論、電力発生工学Ⅰ及び Ⅱ、基礎数学Ⅳ、電気電子工学実験Ⅰ ③国際協力、留学生支 援、ボランティア、囲碁、将棋、読書
	加藤 義人 助手	①パワーエレクトロニクス、インバータ回路 ②電気電子工学 実験Ⅲ、電気回路学演習、電気電子設計製図 ③卓球
	石原 永伯 技官	①コンピュータ、電子回路技術一般 ③マイコン、Ham
演算	大北 正昭 教授	①情報工学、制御工学 ②電力システム工学特論、電気回路学 Ⅱ及びⅢ、電力伝送工学Ⅰ及びⅡ、電気電子工学実験Ⅲ ③散歩、卓球
	松岡 節 講師	①電気機器制御工学、電子計算機応用 ②電気応用学特論Ⅱ、 電気機器学Ⅰ及びⅡ、数値計算法、電気工学概論Ⅰ、電気電子 工学実験Ⅱ、電気電子設計製図 ③スキー、ハム無線、登山
情報	副井 裕 教授	①アナログ及びデジタル信号処理、回路理論 ②回路システム 工学特論、情報通信工学特論、電気回路学Ⅰ、情報伝送工学Ⅰ 及びⅡ ③テニス、マジック
	石田 雅 助教授	①電気・電子回路システム学、情報伝送工学 ②電気電子工学輪講 Ⅳ、電気電子工学実験Ⅱ、電気回路学演習、電子回路学演習 ③バドミントン、バロック音楽鑑賞、パソコン、バズル
	立木 純夫 技官	①電気回路技術一般 ③テニス、バドミントン、茶道
光エレクトロ ニクス	平成6年4月開設予定	

電子回路デバイス講座

研究グループ	職員名	①専門分野 ②授業科目 ③趣味
回路	小西 亮介 教授	①電子計測学、センサー工学 ②電子計測学特論、制御工学 I、電子計算機 I 及び II ③旅行、読書
	尾崎 知幸 技官	①電気・電子回路技術一般 ③茶道
デバイス	徳高 平蔵 教授	①生物情報処理工学、超電導電子工学 ②電子応用工学特論、情報処理工学特論、電子回路工学 I 及び II ③囲碁、書道
	岸田 悟 助教授	①酸化物高温超電導、ニューロコンピューティング ②電子デバイス工学、情報科学、電子回路工学演習 ③テニス
	藤村 喜久郎 助手	①情報処理一般、知的情報処理（ニューロコンピューティング） ②電気電子工学実験 II、情報科学演習、電気磁気学演習 ③パソコン、海釣
固体	小林 洋志 教授	①電子デバイス、半導体デバイス、ディスプレイデバイス、オプトエレクトロニクスデバイス ②固体電子工学特論、電気磁気学 I 及び II、情報処理基礎学 ③水泳、ゴルフ、ジョギング、園芸、スキー、登山
	北川 雅彦 助教授	①オプトエレクトロニクス、半導体材料工学、薄膜技術、発光ダイオード、半導体レーザ、分子線エビタキシー ②電気電子工学論議 II、応用物理学 II、電気電子工学実験 II ③テニス、水泳、読書、山歩き、クラシック音楽
物理	田中 省作 教授	①化合物半導体材料、電子ディスプレイデバイス、レーザ工学、レーザ分光学 ②電子物理学特論、応用物理学 I、固体電子工学、半導体工学 ③スキー、囲碁、将棋、ドライブ
	松浦 興一 助教授	①結晶工学、半導体物理 ②電気電子工学論議 III、基礎数学 III、電子物性工学、電気電子工学実験 II、量子エレクトロニクス ③卓球
	大観 光徳 助手	①固体物理 ②電気磁気学演習、電気電子工学実験 I、物理学実験（教養） ③ピアノ演奏

電気電子工学科 事務官

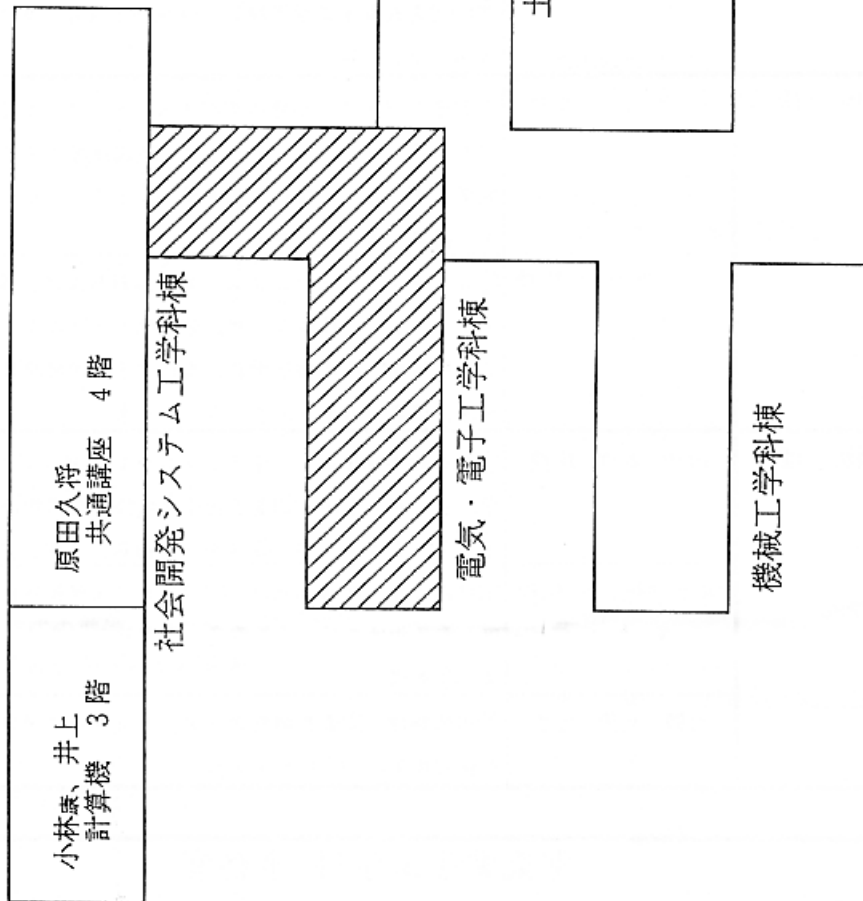
TEL: (0857) 31-5427 (直通), FAX: (0857) 31-0880

奥山 陽子

③編み物、読書、旅行

工学部平面図

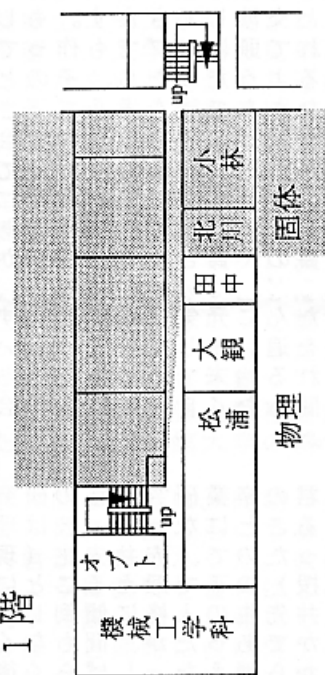
知能情報工学科棟



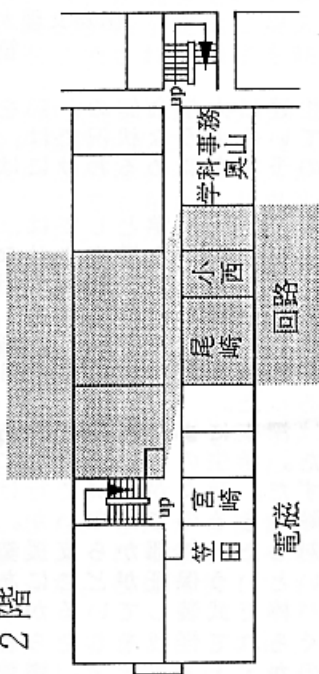
▲ 玄関 物質工学科・生物応用工学科棟

電気・電子工学科棟平面図

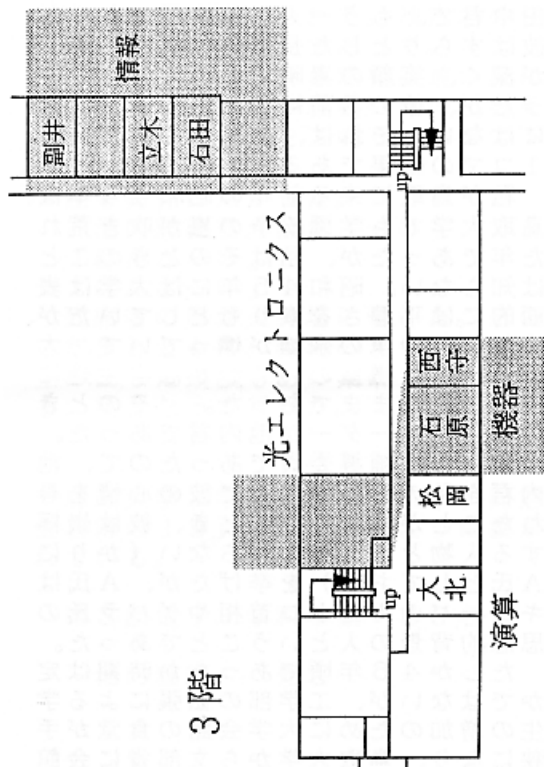
1階



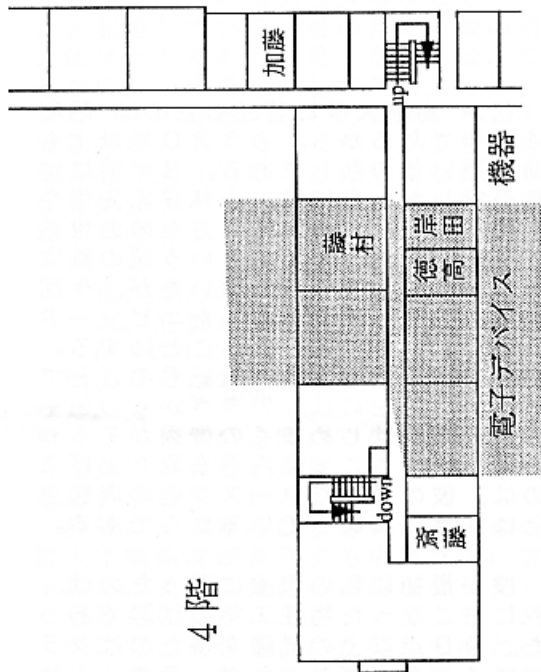
2階



3階



4階



鳥取大学の思い出

—池内君のこと—

徳島文理大学教授
笹倉 博

私が鳥取大学に着任したのは昭和45年であるから、もう20年以上も前の遠い昔の話である。3年前に定年退官したときには、小林洋志先生や小西先生をはじめ多くの方々の世話で「研究生活四十年」という題の論文集（記念誌）を作ってもらったが、今回はそのとき書きもらったエピソードの一つを取り上げてみることにする。それは、1期生・池内雅紀君のことである。1期生には今働きのさかしの田中省作教授をはじめ多くの俊秀がそろっていたが、ここで池内君を取り上げるのは、彼の歩んだコースが他と非常に異なっているからである。

彼が最初に私の印象に残ったのは、秋におこなった物性工学の試験であった。90点以上の成績を得たのはクラスで4～5人であったが、その一人は田中君で、もう一人は池内君であった。彼はすらりとした長身で、横顔が深が、笑顔の名前は1期生の卒業名簿にはない。それは、激動する現代史の1コマの結果である。

私が鳥取に来る前年の昭和44年は、鳥取大学でも学園紛争の嵐が吹き荒れた年であったが、私はそのときは知らぬ。昭和45年には表面的には平静を取り戻していたが、一部には紛争の余燼が燃えている。学会館の会議室のいくつかが占拠された。そのとき学生のリタデーが池内君であった。当時、私は補導委員で、池内君を私の部屋に呼んで彼の心情を尋ねたことがある。そのとき、彼は崇拜する人物として私の知らない（かりにはA氏としておく）を挙げたが、A氏はキューバのカストロ首相やゲバラ氏の思想的背景の人ということであった。しかし46年頃であったか時期は定かたではないが、工学部の拡張による学生数の増加のため、学会館の食堂が狭くなり、鳥取大学から文部省の増築のための予算を申請した。そのときの文部省の回答は

「学生達に学会館の一部を占拠されているような状況では、会館増築の予算を認めない。」

ということである。大学としては、早急に占拠学生を会館から撤去せなければならなくなかった。この問題の担当は補導協議会（全学（補導委員会）で、委員長の津村教授（農学部）の司会の下に会議が開かれた。出席者は30人くらいであった。

激論は深夜にまで及んだ。ある教官は言った。学生の数はそんなに多くはないはずだ。我々が全員で行けば、実力で排除できるのではないか。他の教官は反対した。外部から支援勢力が来ていないという保証がどこにある。彼らはゲバ棒で武装しているかもしれない。なぐられて怪我をしたら誰が責任を持つのか……。議論はいつ果てるともしれなかった。最後に津村教授が発言された。

「それでは、私一人で行って、彼らと交渉してきます。もし、なぐられて頭にコブでも作って帰ってくるようだったら、そのときは、みなさんで後を考えて下さい。」津村教授は暗闇の中を学会館へ歩いて行かれた。まもなく帰ってこられたときのお話では、学生は二人で、その一人は工学部の池内君であった。補導委員の一員として、恥ずかしいことであるが、その時の補導委員の中には、とたんに元気になる、すぐに占拠学生を追い出しに行こうとする人も現れる始末であった。もちろん学生達は間もなく自発的に学会館を撤収した。

池内君の卒業研究は私の研究室で世話をすることになった。彼は理論が得意であったので、赤井先生（現在は教養部教授）の下で鍛えることにした。彼が赤井先生の人格に傾倒しているのは明らかであったが、間もなく彼の姿は大学から消えた。しばらく後に、池内君が成田闘争に参加し、滑走路予定地に建てられた農民の団結小屋に立て

こもっているという噂が流れてきた。約2年の月日が過ぎた。テレビでは、警官隊が成田空港予定地に突入し、団結小屋が取り壊される様子を映し出した。

「池内君が逮捕されたそうですよ。」
学生係の職員が私に知らせてくれた。
「釈放のために身元引受人がいるなら、いつでも私がなりますよ。」と私は答えた。しかしその必要は全くなかった。彼の父は、兵庫県豊岡市で有名な鉄工所の経営者であった。数週間後に池内君は私の研究室に現れた。彼は、ほほえみながら両手を手錠を掛けられたように組み合わせて「これですよ。」と胸の前で小さく振ってみせた。彼の素晴らしい笑顔は少しも変わっていなかった。

「やるなら、これからは警察に捕まらないように要領よくやれよ。」と私は言った。彼は苦笑していた。

卒業論文を書き上げるのは、池内君にとって少しも苦勞ではなかったが、彼の経歴では就職先を見つけてのが、不可能なことは彼もよく承知していた。タイミングよく翌年の4月から工学部に大学院修士コースが新設され、彼は進学を希望し、入学試験も見事に合格した。たまたま赤井先生が共通講座に転出されたので、彼の指導は小林洋志助教授（現在は工学部教授）が担当することになった。

小林先生は、友人の仁木岡山理大助教授（現在は教授）に連絡をとって、池内君のテーマを“マイクロ波立体回路のコンピュータ解析”とした。池内君は、仁木先生からもらった論文の紹介を我々のゼミナールで行ったが、それはまさに“快刀乱麻を断つ”ものであった。鳥取大学の修士課程を無事に修了した彼は、立命館大学の博士課程に進学した。

有能な人間の才能は、時期が来れば奔流のように湧き出るものである。当時の池内君がそれであった。彼は、気が狂ったように論文を書きはじめ、海外の一流学会誌に次々と発表した。博士課程の修了と同時に彼は博士の学位を授与されたが、それは田中君の学位取得とほぼ同時期であった。池内君はすぐに岡山理科大学に講師として迎え

られ、間もなく岡山で結婚式を挙げた。たしか媒酌人は岡山理大理事長であったと記憶している。誰の目にも彼の前途は洋々たるものに見えた。私は心ひそかに、田中君と彼とが学問上での出世コースの好敵手として競争するのを楽しみにしていた。しかし、世の中は私の思い通りに動くものではない。彼は元気がつらつとしていたにも拘らず異常に痩せてきていた。

「池内さんが肝臓で入院されましたよ。肝臓だけではなく方々の臓器がポロポロになっているようです。」岡山理大の若い先生からの連絡であった。そのうちに見舞いに行こうと心積もりをしている間に、思いがけずに死亡通知がきた。見舞いの機会を失ったことが悔やまれた。

葬儀は、御親戚はじめ岡山理大や鳥取大学関係者が参列する中で盛大に営まれた。我々は数台の乗用車に分乗して火葬場に向かった。

池内君の遺体を収めた棺が火葬台に運び込まれ、鉄の扉が静かに閉じられたとき、父君が言われた。池内君の父にふさわしい老紳士であった。

「皆さん、これから雅紀は遠い旅に出ます。どうか雅紀の旅の出発を祝って、万歳を三唱してやって下さい。」

誰も異存は無かった。

「池内雅紀君、ばんざーい」

「ばんざーい」

「ばんざーい」

列席者の声が火葬場に響いた。そのこだまとともに、奔流のように論文を生み出した頭脳もあの素晴らしい笑顔も、灰となって行った。

鳥取大学工学部電気電子工学科同窓会名簿の19頁には、次のように書かれている。

第3回電子工学科卒業 39名

池内雅紀 死亡

(終)

同窓生メモ

湖島会 副会長 豆田 順一（第1回電子）

湖島会の会報に副会長としての所感を書けという依頼が飛び込んできました。当初副会長職をお引き受けした同窓会設立総会前日の鳥取空港のロビーでは、只名前だけと言うお約束だった訳ですが、こう言う約束はすぐ破られる見本だと考えています。（何を隠そうこんな約束したのは田中教授であります。）とにかく近況あるいは同窓会に関する意見をと言うことなので思い付いたことを記させていただきます。

まず自己紹介ですが、私は旧電子工学科の昭和43年入学で所謂一期生です。これが副会長を依頼された唯一の理由です。専門課程は当時2階の研究室と呼んでいた加藤先生のグループで、直接的には原田先生に指導を受けました。4年後に電気回路の追試を経て卒業した後、神戸大学工学研究科に進学し、2年後偶然日立製作所に入社。現在までずっと半導体畑で活躍してきましたつもりです。入社後も実家が鳥取駅裏と言うこともあり、一般的な卒業生より回数多く大学に寄り付いていました。また田中教授が同じ一期生であることから非常に立ち寄り易い環境にありまして、この状況が現在まで続いております。同窓会組織に関しましては、友人の結婚式に出席した折等に、幾度となく「あったらいいな。」と話してはいたのですが、なかなか全体規模では集まらず、ローカルなままで内輪で終わるのが常でした。御承知の様に平成4年9月付けをもって大望の同窓会組織である湖島会が主に鳥取在住の関係各位の御尽力で設

立することができました。工学部は電気工学科が設立されてから約三十年が経ち、我々で電子の一期生が卒業してからも約二十年を経て本格的な同窓会組織ができたことは感激に堪えません。まして毎年発行を決めた第2号の会報に拙文を載せて頂けるとは・・・・・・！

今後益々湖島会が発展し、同窓生の真の寄り所としての機能を発揮することを切に祈って止みません。

湖島会 理事 岡本 公夫（第8回電子）

拝啓 今年は冷夏にて過ごしやすい毎日を送っています。皆様は、如何御過しでしょうか。

さて私の近況報告については、まず仕事の状況です。私の会社はグローリー工業(株)・グローリー機器(株)の電子機器製造協力企業であり、特に私はプリント基板品質管理を担当しています。今年は景気が悪い為売上がグッと減りました。次に家族については四月に妹が結婚し、十月に出産予定です。最後に、趣味については六月よりゴルフを初め秋頃の会社ゴルフ大会に出場予定です。

以上簡単ではありますが、私の近況報告に代えます。

皆様の今後の御活躍を祈っています。

敬具

新任、昇任、退官教官の一言

・小西 亮介	(教授 : 電子回路デバイス講座)	H4. 10. 1より昇任
・原田 久将	(助教授 : 工学部共通講座)	H5. 4. 1より昇任・移動
・北川 雅彦	(助教授 : 電子回路デバイス講座)	H5. 4. 1より新任
・西守 克巳	(教授 : 電気回路システム講座)	H5. 6. 1より昇任
・大北 正昭	(教授 : 電気回路システム講座)	H5. 6. 1より昇任
・石田 雅	(助教授 : 電気回路システム講座)	H5. 6. 1より昇任
・藤村 喜久郎	(助手 : 電子回路デバイス講座)	H5. 7. 1より昇任

電子回路デバイス講座 教授 小西 亮介
平成4年10月1日から電子回路デバイス講座の担当教授に昇格いたしました。今年度は早速就職担当を仰せつかりましたが、御存知のように就職戦線も大きく様変わりして電気電子工学科も御多分にもれず、例年になくきびしい感がありました。しかし企業の方との話しの中で卒業生の皆様の活躍を耳にする場面が多くありました。お陰様で無事希望者は全員就職することが出来ました。平成6年度から博士課程の設置も計画されています。電気電子工学科も大きく変わろうとしています。同窓生の皆様方の益々の御活躍を希望いたします。

工学部共通講座 助教授 原田 久将
本年4月に長い間(採用されてから24年、加藤先生の逝去からも10年)お世話になった電気電子工学科から工学部共通講座に移りました。現在卒研等の学生はゼロですが、本年度はのべ約1000人に工業数学I、II、IV等を教えています。筆跡による個人識別法等の研究を始めようとしていますが多すぎるデータに圧倒されています。また教養部解体の理由がよくわかるようになりました。

電子回路デバイス講座 助教授 北川 雅彦
平成5年4月1日付で電気電子工学科の教官に着任しました。現在大学でも企業に劣らずリストラが繰り返され21世紀に向けた様々な試みが行われています。その中で企業で培った経験を生かして研究教育にいきさかでも貢献できればと思います。今日の最先端技術集団としての電気関連企業の礎となり世界を支えてこられた湖鳥会の諸兄弟のご努力に感謝し、今後益々のご活躍をお祈りし、また会へのご鞭撻、お便りをお願い申し上げます。

電気回路システム講座 教授 西守 克巳
この度、電気回路システム大講座の教授に本年6月より昇任させて頂きました。教育研究分野は電気電子機器工学で、ファジィ、ニューロおよびカオスを使った制御システムおよび情報処理を手掛けています。世の中の動きは目まぐるしく変化し、その即応することが求められています。大学にもその波は押し寄せています。今の不況にもめげず、新しい技術の研鑽、開発に共に精進しましょう。

電気回路システム講座 教授 大北 正昭
私は昭和43年4月電気工学科に奉職しました。奉職まもなく大学紛争の波を受け、学内は騒然とし、研究室は閉鎖状態に追い込まれました。以来25年、学内事情も変貌を遂げ大学院博士課程の設立目前と言う段階にあります。一方、卒業生は、社会の中に力強く根を下ろし、かなりの評価も得ており、湖鳥会も結成され将来の躍進が期待できることは我々の誇りであり大きな喜びです。将来の見通しは明るいものとは思われませんが共存共栄で頑張ろうではありませんか。

電気回路システム講座 助教授 石田 雅
昭和52年1月本学工学部電気工学科通信工学講座技官として勤務して以来、早16年を経過しました。これまでの工学部の改革、発展は大きく、目ざましいものがあります。又、来年の平成6年4月より博士課程設置予定の運びとなり、誠に喜ばしいことです。このことは同時に、社会的に大きな期待と責任を負うこととなります。私個人、責任の重さを感じると共に、今後湖鳥会各位のご支援、ご協力並びに、ご理解を宜しくお願い致します。

電子回路デバイス講座 助手 藤村 喜久郎
平成5年7月から鳥取大学工学部の助手に昇任いたしました。現在、電子デバイス研究室(徳高教授)においてニューロコンピュータを主体とした知的情報処理に関する研究をテーマとしています。この分野は人間にやさしいシステムを作りあげるうえで今後重要な位置を占める研究と考えられています。今後、湖鳥会の皆様とともに将来を創造していく夢のある研究をすすめていきたいと存じます。

1992年度 事業報告

1. 会員名簿の作成・管理と発行
 - ・住所不明などの調査
 - ・パソコンソフト カード3に電気工学科、電子工学科、電気電子工学科、工学研究科（電気専攻、電子専攻）、特別会員、賛助会員を登録
 - ・会員名簿発行（1992年12月）及び配布
2. 同窓会設立基金の徴収
 - ・設立総会開催前、名簿配布時に徴収
 - ・現在（1993年4月）、495人から寄付
3. 「湖鳥会会報」の発行および配布
 - ・名簿と同時に発行
 - ・主な内容は、設立総会の報告など
4. 入会金の徴収
 - ・平成5年3月に電気電子工学科（第1回）から5,000円/人を徴収
 - ・同時に、「名簿」、「湖鳥会会報」、記念品を配布
5. 記念品（同窓会オリジナルのテレホンカード）の作成
 - ・3年分を作成（300枚）
6. 理事会の準備
7. 同窓会支部結成の準備
 - ・関東、中部、関西に支部をおく予定である。
8. 工学部同窓会との連携
 - ・工学部30周年記念事業など
9. その他
 - ・広く会員からの意見などを受け入れ、会則にある「会員相互の親睦」のために活動する。

1993年度 事業計画

1. 会員名簿の作成及び管理
 - ・住所不明者などの調査と管理
2. 入会金の徴収および記念品の配布
 - ・平成6年（1994年）3月に電気電子工学科（第2回）卒業生から徴収
 - ・同時に「名簿」、「湖鳥会会報」、「記念品」の配布
3. 設立基金の徴収
 - ・未納入の会員に請求
4. 同窓会支部の結成準備
 - ・関東、中部、関西に支部をおく準備を行う。
5. 工学部同窓会との連携
 - ・工学部30周年記念事業など
6. 「湖鳥会会報」の発行
 - ・1年に1回とする
 - 内容は特別会員、賛助会員、あるいは正会員からの現状報告、会計報告および事業報告（年度毎）などとする。
7. 役員の変更
 - ・幹事→理事
加納尚之（第17回電気・米子高専）
 - ・新幹事
北川雅彦（第3回電子・鳥大）
立花慶治（第18回電気・鳥大生協）
 - ・新理事
小川共三（第3回電気・日立フェアイト）
長岡昭宏（第19回電子・ダイヤモンド電機）
8. その他
 - ・平成7年（1995年）に名簿発行予定

1992年度決算報告・1993年度予算案

(収入の部)

項 目	1992年度決算	1993年度予算案
同窓会・設立基金	4,950,000円	0円
入会金 電気電子工学科 卒業生	300,000 (60人×5,000円)	400,000 (80人×5,000円)
会 費	0 (平成7年に徴収)	0 (平成7年に徴収)
そ の 他	363,965 (寄付等)	0 (利息等)
前年度繰越金	0	2,602,319
合 計	5,613,965	3,002,319

(支出の部)

項 目	1992年度決算	1993年度予算案
設立總會・準備費用	204,500円	0円
名簿・会報 名簿管理・アルバイト	2,211,550	400,000
記 念 品	192,271	0
総 会・補 助	341,234	0
支部結成 準備費用	0	100,000
事 務 費	18,205	10,000
会 議 費	0	50,000
通 信 費	5,340	100,000
そ の 他	38,546	0
繰 越 金	2,602,319	2,342,319
合 計	5,613,965	3,002,319

1993/3/25 現在

振込口座	119,280円
通帳・定期	1,000,000円
普通	1,482,905円
現金	134円
合 計	2,602,319円

湖鳥会事務局からの連絡

1. 会費について

今回で湖鳥会会報の第2号を皆様に無事に届けることができ、関係者一同がんばった甲斐があったと自負しています。

ところで会報や名簿発行などの作業は実際には決算報告でわかるようにお金のかかるものです。同窓会名簿を受け取られた方で、設立基金未納の方はこのような状況です。事務局までなにとぞ納入頂きますようお願い致します。

・未納かどうかの確認方法

封筒に記載された住所下のコード No. を確認して下さい。

(例) EC 65 001-001-10

未納の場合は00
となっています。

・振込口座No.

山陰合同銀行 湖山支店

普通 2343299

あるいは同封の郵便振込をご利用下さい。

また住所不明者は、

約600人/1800人中

となっております。名簿で気付かれた方は事務局まで御一報下さいますようお願い致します。

2. 会長より一言

湖鳥会会報第2号発行おめでとうございます。今回の会報は設立基金未納の方であっても住所の確認ができています。本会報はそう届いていることと思います。本会報はそういった意味で、設立基金未納の方には無償でお届けしています。湖鳥会会報第2号を皆様にお届けできたということで、今後も継続的に会報を発行し、益々充実した同窓会活動を行っていかうと考えています。このためにも事務局の気迫を感じいただき、今後とも皆様の暖かいご支援（設立基金の納入とか、会報への原稿等・・・）をお願い致します。

湖鳥会 会長 鷺見 育亮

3. 会報原稿について

湖鳥会事務局では、会報に載せる皆様の意見、近況報告等を募集しております。紙面の関係で、すぐには載せられないかも知れませんが、少なくとも1年後には載せられると思います。原稿はどのようなものでも結構です。（例えば結婚の話とか弔問関係等）皆様のお便り・ご意見をお待ちしておりますので宜しくお願い致します。

— 編集後記 —

昨年12月に同窓会名簿と会報の創刊号を発行してから、早くも1年が過ぎようとしています。

今年春の理事会にて、会報を毎年発行することが決まり、早速編集作業に入りました。しかしながら、掲載内容の決定と原稿の収集に手間取り、年末の発行となりましたことをお詫び致します。会報が会員の皆様の情報交換の場としてお役に立てれば幸いです。つきましては会報についての御要望、御意見がございましたら事務局宛お送り下さい。また、会員の方々の近況等記事を募集していますので、こちらも宜しくお願い致します。

最後になりましたが、原稿の執筆を頂きました笹倉教授、豆田副会長、岡本理事をはじめ、編集に御協力いただきました学内の教職員並びに編集委員に感謝致します。

湖鳥会 幹事 田中 堅太郎

<事務局連絡先>

〒680

鳥取市湖山町南4丁目101

鳥取大学工学部

電気電子工学科事務室気付

電気電子工学科同窓会

湖 鳥 会

TEL 0857-28-0321 (代)

FAX 0857-31-0880